

第2回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 議事録

- 開催日時：令和4年2月17日（木）15:00～16:00
- 開催場所：のいちふれあいセンター2階 研修室
- 出席委員：受田浩之委員長、竹内淳委員、小笠原由美委員、宮崎利博委員、
中脇正人委員、森川良奈委員、古川和佳委員、田中愉之委員、立仙裕二委員、
百田年真委員、水田貴士委員、國松美紀委員、土居秀臣委員
- 事務局：岩田地域支援課長、浜田商工観光課長、國松こども課長補佐、小松農林水産課長補佐
門脇企画財政課長補佐、中川、立仙、宮崎

【次第】

1. 開会
 2. 市長あいさつ
 3. 委員長あいさつ
 4. 議事
 - (1) 令和3年度目標達成状況（進捗状況シート）及び令和4年度の新たな取り組みについて
 - (2) 第2期香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について
 - (3) 「魅力ある香南市をつくるアンケート調査」について
- 事務局
- (1) 令和3年度の目標達成状況（進捗状況シート）及び令和4年度の新たな取り組みについて説明
 - (2) 第2期香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について
 - (3) 「魅力ある香南市をつくるアンケート調査」について説明

- 委員長
- ここからは各委員に短めにコメントをいただき、そしてそれをぜひ市として受け止めて頂きながら、このまち・ひと・しごと創生総合戦略のフォローアップをし、そこに反映し活用させていただきたいと思う。今日ご出席の委員の方が12人いるが、一人二分程度でご意見をいただきたい。

- 委員
- 先ほど説明頂いたアンケート調査について、小学6年生、中学3年生、18歳と農林業に関する注目が徐々に低くなっている。今農業関係では小学校の2、3年生を対象として農家に入り、ピーマンやししとうの収穫を行い、給食に使ったり自宅に持ち帰って調理するというような体験をここ数年行っている。このアンケート調査の対象が小学校3年生であれば、20%ほど行くのではと期待もしておるが、やはり年齢を重ねるごとに

農林水産業に対する魅力を感じられていないのではないかと、私たちの指導の仕方が間違っていたのではないかと考えている。私は農業関係者の方々にお金を儲けたら使え、良い車に乗ったり、そうしたら他の方が農業に魅力を持ってもらえると言っている。ただ、アンケートの取り方について若干問題があるように感じる。近年、コロナに関して一昨年から農業関係が非常に落ち込んでいるが、今年に入って回復してきている。しかし、前年、前々年の落ち込みが大きかった為に、今やっと100%、120%になっているだけで通年を通してみると低い現状である。特に冠婚葬祭に関して花類の売り上げが去年は悪かった。また、現在資材代が高騰していることも大きな問題となっている。原油関係の燃料費が現在非常に高い。国も現在価格補給をしてくれているが、3年くらい前には重油1リットル80円であったのが、現在では100円を超している。補填があっても厳しい状態である。

■委員長 アンケートの取り方、農業の現場の声、資材の高騰の問題について意見をいただいた。ありがとうございました。

■委員 国勢調査の確報値を拝見させていただいて、南国、香美と比べると香南はすごいと思ってしまう。減ってはいるが県内でこれだけ抑えているのはすごいのだろうなと思っている。香南市の観光協会が、会員向けではあるが農業関係者に観光で協力を頂けないかと、農業をされている方の視察観光のようなものを企画してくれた。農家の方は皆さんお話し上手で、来た人を楽しませようという意気込みを感じた。こういった農業観光を県内外の人に、香南市としてアピールすることで、移住やそれに伴う人口増加や、対象を子どもにすることで、子どもが農業に興味を持ってくれることがあるのではないかと思います。魅力のある農家の方もいらっしゃるの、私どもはこれを農家の方たちと協力して観光に繋げていけたらと思う。

■委員長 アンケートを具体的な定点で観測しながら、EBPMのような発想で今の話も繋がって行くのではないかと思います。ありがとうございました。

■委員 資料1の1ページ目を開けると、左側の取組状況では泣きマークが多いがコロナの影響が表れているのかと思う。右下の今後令和4年度の新たな取り組みというところで、新規拡充事業は無しというところが先に出てきて、残念に思う。これは農業分野だけではなく、4割くらいが新規事業無しとなっている。今年、現状1年すれば、新たなところへ行けないのかと思う。そういうところがないと活力にはならないのではないかと思います。一方で、次世代を担うアンケート調査を見ると逆に熱量がある。これと将来の目標を具体的に施策にしていく、この熱量を持続していき、進行の方向を探って行ってもら

いたい。新規施策を出すのは難しいので、各部会と執行部の方で努力をしていただきたい。

■委員長 根本的な部分。アンケートに対する熱量の部分が一つのきっかけになっていく大きなヒントとアドバイスになったと思う。ありがとうございました。

■委員 委員長が最初に仰った50代から60代の起業と空き家を上手く利用する。コロナによって人生のイノベーションが起きているのではないかと思う。これからは移住をしても定住をしなくなるだろうという話を委員長ともした。ノマドワーカーと呼ばれる人の、人生の節目節目、例えば子育ての時はここというような生き方をするのではないかと思う。子育てで言えば、兵庫県の明石市や千葉県の流山市などが意欲的で尖がった施策を展開し、子育て世代が集中している。これだけ意欲的なことをやろうとすれば、濱田市長のリーダーシップ、政治力、情熱が必要だと思う。子どもが香南市で育ってくれば、その子たちは香南市を覚えているので、関係人口も増えていくのではないかと思う。長期的な視点で考えていかなければいけない。時代は思ったより変化している。

■委員長 人生のイノベーション、ノマドワーカー、関係人口、キーワードがしっかり盛り込まれていた。濱田市長の心を打ったコメントだったと思う。ありがとうございました。最後に市長からもコメントを頂きたいと思う。

■委員 林業、農業、水産業に関しては竹内委員が言われた通り、コロナの前はかなり低学年、保育園児に対して地域の方が入ってくれて、一緒に様々なことをやってみようという取り組みが多かったように思う。今後、保育、低学年、小学校、中学校に上がる前にそういう体験をすることは非常に大事だと思うので、コロナだからと忘れずにしていただきたい。また、先ほども話があった通り、香南市に育つと故郷を覚えている。アンケートにもあったように自然が多い大好きです、など小さい子どもの意見は大事にしていきたい。そういう経験を色々な農業、水産業、林業の自然を関わる仕事している方たちに力を入れてやって頂きたいと願っている。

■委員長 一次産業、そしてそこに体験を上手くつなげていくことによって、故郷愛の醸成をしていくというのは非常に重要なことである。ありがとうございました。

■委員 先ほども竹内委員がおっしゃった通り、非常に資材が高騰しており、10年前から比べると、園芸ハウスを建てようとする2倍近くのお金がかかる。補助金で補助をもらっているが、新規就農者や若手農家の規模拡大に関してはハードルが高い状況となっている。そこで、露地野菜を行う農家へのサポートや、取り組んでもらおうと思ってもらえるような取り組みがあれば、香南市の農業ももっと栄えるのではないかと思う。また、アンケートについて、自分の知り合いには香我美町の駐屯地の自衛隊の方がいるが6年くらいで転勤されるそうです。西日本の田舎の出身の方が多く、独身の方や子育て世代の方がおり、そういう方々は故郷がある状態で高知県に住んでいる状態なので、そういう方々の意見を聞くと、また違った視点で香南市が住みやすいのか、改善点などが聞けるのではないかと思う。

■委員長 資材の高騰により、施設園芸自体がかなり困難な状態にある。露地へのシフトも一つの考え方ということ。アンケートに関しての視点では、竹内委員からもいただいたが、今後のアンケートをどう改善させていくのかということに対して貴重な意見である。ありがとうございました。

■委員 アンケートを取った子どもたちへのフィードバックはしているのか。前回は考えるという事だった。せっかく香南ケーブルテレビさんもいらっしゃるので、小学生の意見が行政を動かしたというような取り組みをしながら、子どもたちを評価してあげれば、子どもたちも喜び、積極的にアンケートにも回答することにも繋がるのではないか。地域を何点かに絞って、施策に反映されたことをフィードバックしていただければと思う。

■委員長 フィードバックに関しては事務局からもコメントをいただきたい。そしてこの部分は元々の目的として、アンケート調査をやっていこうという意見をいただいた原点だと思うので、この点はぜひ大切にしていきたい。市長にもご理解いただきたい。ありがとうございました。

■委員 意見としては、自分は農業に対する意見を言おうと思ったが、竹内委員などと被るのでこれ以上はない。

■委員長 資材の高騰や現場で困難に対応されているということの繰り返しのご意見だと思う。ありがとうございました。

- 委員 香南市の中でお祭りにずっと関わっているのも、伝統文化であったり地域の存続できていないお祭りをコロナ明けに再興していきたい。その中で、香南ケーブルテレビにはお世話になっており、先日「香南っ子映像倶楽部」の方が香取神社のお祭りをやっている特集をしていた。その中で香取神社が中止にしていたお祭りを再開するという事や、昨日の高知新聞の記事にもあった香南相撲クラブなど、伝統文化が好きな自分としてはもっと若い人たちに広げていってほしいと思う。
- 委員長 文化、スポーツを通じてのまちづくり。それを重視していくという意見だった。ありがとうございました。
- 委員 金融機関の立場から、お話しさせていただきたいと思う。資料1の4、商業、工業について、空き店舗の活用というところで、この文言に空き店舗情報を一元化し発信できるように不動産会社と連携をとるとあるが、ここに金融機関も入れて頂き、情報を共有させていただければ、創業したい方を繋げられたりする可能性もある。空き店舗を使った創業ではないが、実績としては令和2年度が2軒、令和3年度が1軒、現在1軒が進行中というような案件もあるので、金融機関を活用いただければと思う。
- 委員長 創生総合戦略に、産学官金労言というコピーがあるが、金融機関に入って頂ける部分を強調していただいた。ありがとうございました。
- 委員 委員の皆さんの意見の中に香南ケーブルテレビの話題が出てうれしく思う。今後も香南市の商業や農業など色々な面で共に盛り上がっていけるように思っている。日頃は皆さんに協力いただいていることを感謝している。香南市が様々な取り組みをされていたり、制度があったり、そういう面を各課からのお知らせとして、ケーブルテレビの告知コーナーを活用していただき、住民の皆様へのお知らせに使っていただければと思う。また空き店舗の活用について、空き店舗の実態調査や空き店舗バンク事業の調査に時間がかかっているとあるが、大体いつ頃取り組みがスタートする予定などがあれば教えてほしい。
- 委員長 香南ケーブルテレビの存在というのは、創生総合戦略の場でしばしば聴かれること、大切な香南市における情報の発信源であり、それを皆様が共有し、その後どう発展し企画していくか、ここが大きなスパイラルを描いていくというような姿をいつも拝聴しているところである。空き店舗の活用については後ほど事務局からお答えいただきたいと

思う。

- 委員 前回の会の時に申したが、このアンケート調査を複数回続けていく中で、アンケートの結果の中には行政では出来ること、出来ないことがあるが、行政で出来る事をしっかりと施策に反映させほしいと言った。それを踏まえ、参考資料2で産業振興計画の部会や人生支援計画の部会に情報を共有して考えていきたいとあり、市として考えてもらっていると感じる。なお、それぞれの部会が香南市として積極的にやっていきたいことや取り組みたいことも考えたいので、部会でも考えて頂ければと思う。

- 委員長 土居委員の今のコメントは昨年にも頂戴したと明確に記憶している。一気に全体を施策に反映することは難しいが、先ほどの田中委員のフィードバックの話や、さらには農業に関する様々な魅力づくりのような施策がどういう風に子どもたちに直接伝わっているのか、これをアンケートで完全に定点で観測しているので、やっていることがどう跳ね返ってくるのかは物凄く分かりやすく説明できるようになっている。これは当地における大きな特徴であり、そこまで総合戦略というものを議論して積み上げてきたという一つの大きな強みではないかと思う。それぞれの意見を頂戴したが、大きく二つ事務局に質問をする。アンケートをどうフィードバックするのか、それをどうEBPM（エビデンス・ベスト・ポリシー・メイキング）として回していくのか。そして、國松委員から空き店舗の調査、データバンク的な取り組みについて進捗はどうしていくのか。この二点を事務局に回答いただきたい。

- 事務局 アンケートのフィードバックについては実際のところ、アンケートを答えて頂いた子ども一人一人にはフィードバックは現在できていない状態である。以前も、フィードバックは重要であるという話を頂いており、事務局の方でもどうやって返せば分かりやすいのかというのを考えている。アンケート結果の冊子の内容についてはホームページにも乗っているが、結果を数値としてただ出せばいいというものではないと思うので、これについては年齢も小学生から18歳までいるのでどういう形でお返しするのが一番わかりやすく、そしてその意見がどのように反映されて、具体的にこれはこのアンケートの意見を基にしてできた事業であるということがわかるような形で、お示しできればと考えている。アンケートの学年を定点で取るという事をやっているのだから、違う学年であればまた違った結果が出ると思うが、前期の期間中はこの三年代という形で進めていき、状況によって別の調査なども検討していきたい。施策への反映については、各部会とも連携を取ってこのアンケートの結果を反映したものを明確に出せるものがあれば、積極的に分かるような形で出せるよう、各部会と検討していきたいと思う。

- 事務局 空き店舗の実態調査については本年度、会計年度職員を雇用して、インターネット上

の地図から下見を行い、現状の調査を行い、実際に現地を訪れ、一軒一軒確認を行っている。11月末時点で、野市町と吉川町の調査が終了している。今月末をめどに、赤岡、夜須、香我美の調査を終えるように現在取り組んでいる。参考として、野市町では外観上営業していたと思われる店舗は135軒、うち店舗のみが64軒、住宅と併用、現在居住されているものが69軒という数を整理している。バンクについては現在調査の整理が出来ていないので、今後整理をしていきたいと考えている。

- 委員長 アンケートのフィードバックを、より総括的にまとめながらフィードバックしていくのは一つの考え方だが、とても時間がかかるので一点突破していくというのも一つの例である。例えば、こういう事例をこういう風に具体的に施策に反映したという事を示し、そうやって反映されることもあるのだというところから始めていく手もある。一点突破全面展開していく、そういう考え方も含めて、モデルケースを作っていくというのも一つの考え方かもしれない。現在2年目であり、来年で3年目である。小学校6年の次は中学3年生が対象である。小学校6年生のアンケート結果が次の中学3年に繋がっていくことで変化がより明確に出てくる。3年を一サイクルで見ていくことが、今回アンケートを定点で見ていくことの意味になっていくので、この辺りも意識しながら進めていくことが求められる。また、空き店舗の調査をやって頂き、これをどう活用するかが課題である。資金的には水田委員もいるので、水田委員にこれをどのように持っていきばいいのか、これをまた店舗にするのか、それとももっと違う考え方があるのではないかとといった冒頭申し上げたオフィスとしての活用であったり、或いはリモートワークをする時に、狭隘で自宅のスペースが不十分であるような場合の改善にもなるわけである。様々な形をこの調査結果に基づいて企画をしていただければ次々にアイデアが出てきて、拡充事業は無しという事も防ぐことが出来るのではないかと考える。言い足りないことはたくさんあると思うので、気づいた点があれば事務局へ伝えて頂き、フォローアップに反映していくようお願いをする。是非、やりとりしていただきながら、より良いものに改善して頂くよう委員の皆様には、引き続きよろしくお願いを申し上げます。

5. その他

- 市長 委員の皆様ありがとうございました。短い時間ではありましたが内容の濃い委員会でありました。委員からお話がありましたが、私自身心苦しいのが、来年度の予算に関しては時間的制約がございまして、私の気持ちを反映することができませんでした。しかし、令和5年度に向けては私のカラーを存分に発揮して、まさに子ども真ん中社会というものを念頭に置いた予算に大胆に踏み込んでいきたいと思っております。また一次産業についても私自身大切に思っております。そういった所に私のカラーを出せるように取り組んでいきたいと思っております。私も県外に16年程住んでおりました。この香南市に

帰ってきた最大の理由は、私が子どもの時この香南市で暮らした時代が素晴らしいもので、素晴らしい地域で育って、そしてこんなに元気で、明るく人生を過ごしている事を、自分の子ども、そして子ども達に同じ思いを共有していただきたいですし、そういった町を創りたい、そしてそれを応援したいと思っています。その気持ちを忘れないように、来年度以降には予算や様々なことに率先して挑戦していきたいと思います。委員の皆様のご意見や、このまち・ひと・しごと創生総合戦略を、私自身がしっかりと腹に入れて、予算に反映してやっていきたいと改めて思ったところであります。委員長がおっしゃったとおり、3年というものが子ども達にとっての一つのサイクルでありますし、3年後にこの6年生がアンケートに答えてよかったなと思っていただけるように、そして中学生が県外に行くのではなくて、香南市で農業がやりたい、水産業がやりたい、そして香南市の空き店舗でなにか商売をしてみたいと思えるような町になるように精一杯努力したいと思いますので、委員の皆様引き続きよろしくお願いいたします。

6. 閉会